

# 新 果樹園の土壌管理等による果実安定生産技術の確立(H30~34)

- 新1 生理障害発生園の土壌環境実態把握(H30~32)(重点化)
- 新2 土壌管理等による果実生理障害の発生抑制(H32~34)(重点化)
- 新3 モモ・ブドウの環境変動に対応した効率的施肥技術の確立(H30~32)(委託)



## 背景とねらい

・集中豪雨や猛暑  
・土壌環境の悪化  
⇒ 生理障害の多発が懸念  
(地球温暖化による影響への対応が必要)



中でも…  
モモの核割れ ブドウの裂果などの生理障害の発生  
⇒ **商品性や収量の低下が問題**



生理障害の発生は、  
品種特性や栽培面に加え、  
**土壌面の影響も大きい**



果樹の安定生産のため、  
**土壌管理を活用した生理障害軽減技術の確立**



## 試験内容

### 1. 生理障害発生園の土壌環境実態把握(H30~32)

- 対象:モモ 核割れ、ブドウ 裂果
- ・管理方法:土壌、施肥
  - ・土壌特性:透水性、養分含有量
  - ・障害発生程度 など

⇒ **現地土壌環境の実態把握**

### 2. 土壌管理等による果実生理障害の発生抑制(H32~34)

- 土壌管理方法の効果的な活用を検討
- ・樹体、根系の生育
  - ・果実品質、障害発生程度
  - ・土壌水分、土壌養分

⇒ **土壌面から生理障害軽減方法の解明**



有機物資材



耕起方法



土壌改良資材



草生栽培 など

### 3. モモ・ブドウの環境変動に対応した効率的施肥技術の確立(H30~32)

- ・温暖化に対応可能な施肥時期や施肥量の検討

## 期待される効果

- ・土壌面から、生理障害を軽減する技術が確立される
- ・果実に適した土壌環境を保つことで、気候変動下でも果樹の安定生産が可能になる  
(H27年度果樹栽培面積 :ブドウ4,130ha、モモ3,460ha)

